

第1回東大本番レベル模試 国語(文科) 優秀答案
第一問

(一)
社会を構成するあるポジションを占めるよう命令された人間が命令に従えなくなったとき、ポジションを占める人間が交代しポジションが存続しつづけるということ。

(二)
社会を構成するポジションを占めるよう命令され、役割を遂行していく自我としての生ではなく、疲労により遂行性から脱出して享受される自己自身の生、ということ。

(三)
社会から人が脱落すると我々は何も出来ないので社会の命令に従えず、その結果人々は自我から自己へ落ちそれが伝わりと自己で構成される共同体が始まるということ。

「死」のように社会から誰かが脱落するとき、私たちは社会の形成要素である命令の伝達をしえなくなり、自分の無力さが伝達され共同体が形成されるといふこと。

第二問

(一)

ア 大納言は必ずいらっしやると思つて、みな待ちなさっている。
エ いつも愛情をもつていたことを、大臣は女宮に申し上げなさる。
オ 何かわけがあるのだろう、と大納言は思いなさつて

(二)

実兼に忍び歩きを知られないために、女宮の門の下に自分の牛車を寄せた。

(五)

私と違う男を邸の中に入れることは度々あつたに違いない。なんと愚かしいことだ

第三問

(一)

翌日、西南道に馬に乗っている婦人がおり、蝗の神様であるから、畑の穀物を食べないと哀願しなさい。

(四)

私のおさめている沂はちっぽけな土地であるので、どうかあわれに思って蝗が穀物をたべないようにして下さい。

(六)

柳の神が助言をくれ、蝗の神も畑を襲うのをやめたのは、沂の長官の民を心配する心を感じ入ったからだということ。

第四問

(一) 神的存在である操り手に操られる人形は、意識の介入による肉体と意識とが分裂した人にはありえない自然な優美さを持っているということ。

(二) 近代の劇空間は、人間がより高次の力に依存し従属しているという表現を失い、歴史を理性の実現の過程と見る錯覚によって人間的なものを優越視しているということ。

(四) 肉体はかつては本質的に受動的な器具とみなされており、苦難を受ける存在にかえって優美さを感じるのもその本質が立ち現れるからだということ。

操られているかのように意識を除いた文楽や歌舞伎が逆に美しいのは、人間の肉体が本質的に神に操られることを受け入れるものであるからだということ。